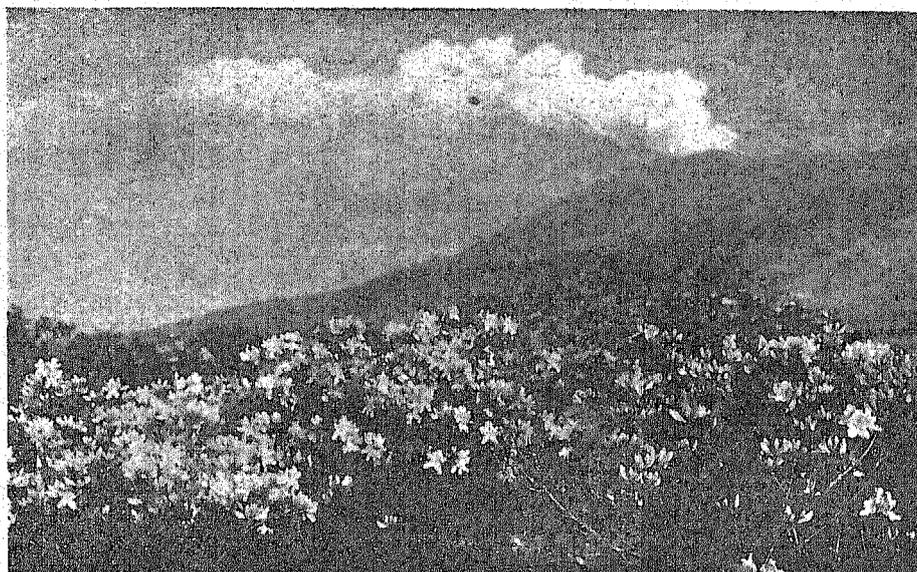


# 報會曲千

日十三月五年六十和昭

號 五 第

會曲千人法團社



## 目 次

- △表紙 陽春麗花飄る淺間山麓 柳澤 延房(一)
- △明日への備へ……………味 澤 生(二)
- △江都雜信……………出野 正雄(二)
- △選輯抄……………(三)
- △母校便り……………(三)
- 纖維化學科新教室完成
- 千曲寮新設
- 會田源作助教授新任
- 諸曲研究会
- 映畫班の活動
- 校内喫煙に注意喚起
- 新入團員歡迎足會
- 佐原良太郎教授新任
- 本年の春獵飼育實習
- 紅葉山御養蠶所拜觀
- △本會記事……………(四)
- △敍任辭令……………(四)
- △卦 報……………(六)
- 弔慰金募集
- 弔慰金報告
- 噫西谷剛一君……………飯田 武門
- △會員勸辭……………(七)
- △遠藤教授退官記念資金募集……………(八)
- △指定旅館案内……………(九)

# 明日への備へ

柳澤延房

獨逸は例の電撃作戦で、ポーランド、スカンジナビヤ、西歐、バルカンと次々に攻略し、資源を確保して、戦争への経済力増強を計つてゐる。盟邦獨逸の行動は實に天時の武者振りではあるが、一次大戦敗後の苦境試練時代と明日への希望に燃えた心構へと努力の姿こそ我々の學ぶべき獨逸の偉大な姿であらねばならぬ。

今度の戦争に入る前に獨逸は軍需資材並びに國民生活必需物資の輸入に識者の注目を惹いた。例へば屑鐵合金鐵は平時の四倍、小麦の如きは平時の二十倍の輸入激増である。切符制度等は獨逸軍がポーランドへ侵入したその時既に施行されてゐる。獨逸の戦用自動車は約二百萬臺といはれ、或は山に駆ける特殊自動車、或は大型の歩兵輸送用装甲トラック等或は巨砲を運ぶ牽引自動車或は重量タンク等幾多の種類の自動車や砲台機械人形の様に有機的な聯働を保ちつつ進撃するのである。山岳重臺し北歐のトロトハイム、ベルゲン、スタパンゲル、又近代築城の粹を盡した金城湯池マナノ、ジークフリートへの間髪を入れぬ進撃作戦もこの機械化部隊である。ヒットラーが政權を掌握して以來八年を通じ計畫的に準備されたのである。

獨逸の生産と消費の調整機關等も戦前より活動してゐたに對し、英、佛の戦時經濟政策は全く獨逸に劣り、諸機關の改組設立に時間を食ひ主要資源の動員は遅滞し、配給機構の不備は工業に對する原料供給を困難ならしめてゐる。英國の主要原料のストックは戦時必要量の三ヶ月分に過ぎないとさへ言はれてゐた。獨逸の入念な準備は英、佛に比べて著しく劣り勝の原料を最も効果的に利用してゐる。獨逸の心掛けは努力により、頭腦の力によつて國土からその必要とする最後の一物までも實用の域に持ち來さねばやまぬのであ

る。「獨逸人は天才的國民に非ず」と獨逸人自身告白してゐる。努力と研究組織がかくあらしめてゐるのである。知能の動員は平時から行はれてゐる。しかも石炭液化の四ヶ年計畫も只生産擴充を自體の機構に非ずして世界の石油資源が使ひ果された後に於てゲルマン民族が世界の生活に於ての用意を持つたもの今からの原料革命なのである。そして、ベルギー、フランス、スイス、ポーランド、デンマークを参考して石炭を液化し、自給自足の確信を持つてゐる。元來獨逸は軍需原料に乏しいことは日本と同じだ。「マークにて賄ひ得るものは高價にして高價に非ず、國外より金で求めるものは廉なりとも廉ならず」といふ猶乙流の考へ方を我々は充分味つて見ねばならぬ。自由經濟に走つた日本が國外に支拂つた工業技術の代價たる特許料は恐らく年數億圓に上つてゐる。朝鮮の産金額年數億圓といふが、産金政策によつて得られたその相當金額が外國に特許料として支拂はれて行く。その上特許契約により生産量を報告する義務を負はされたりその生産品の海外への販賣制限を受けてゐる。

鮎川氏の或講演で「日本の技術は、この儘に放置する時は獨逸の現狀に到着するに百年を要する」といふてゐる。新しき科學は新しき資源を生む。石油の不足は石炭液化を考察せしめ、粉鐵質鐵は、電撃法、パッセー法、クルツツ法等の製鐵法で之を處理する。探炭、洗炭に一段の工夫をすることにより、良炭の回生を見得るのである。米國の軍需資材の豊富さに對する日、獨逸、伊、樞軸國は大きなハンデキャップを負はされてゐる。

それ丈に新しい科學に大きな期待がかけられてゐる。石油の世界總生産額の六十パーセントは米國が占め、日本、獨逸は各々一、二

パーセントに過ぎぬのである。そろ／＼米國の石油埋藏量が涸涸して呉れぬかなどの期待を日本人の誰かが持つたとしたら、とんだ間違ひだ。

六年前にはローザンゼルス市の臨海地帯に又三年前には、イリノイ州に物凄い油井を開き、昨年の如きは油井數三萬四千本、石油生産の最高記録を作つてゐる。航空機や船艦一つ作るに數百種類の材料を必要とするが、そのたつた一つの材料が無くては、製作上の苦勞や、能率の點の支障は大變なものである。米國の戦時原料確保に困難なものは、ゴム、クローム、マンガン、錫、ウオルフラム位のものである。ニッケル、石綿は自國に無いが國續きの加奈陀に澤山ある。

次に工作機械について見れば、日本は第一次歐洲大戰により製造技術の進歩は、精度に於ても、高級なものには、一流外國品に遜色なく國産品の向上を認め得た。我工作機械工業確立への第一歩に於て、ワシントン條約は締結され、世は軍縮の一途を辿りつつある時、敗戦獨逸は戦争中は國內の急需に追はれ進歩改善の暇もなく、大戰終了頃は最早米國に追ひ付く見込のない程の懸隔が出来、加之國內産業の大疲弊と、インフレによる經濟界の混亂等のため英國にすら劣り、再起不能とさへ思はれたのに、シュレージンガー指揮の下に、規格統一の實施を徹底せしめ、他方獨逸製品の改良を計り、他國に市場を得て優秀精密な一流品の輸出に務め、ためにナチ政権出現迄と、ナチ政権確立以後ヒットラーが「四千五百萬の英國人が世界に於て、四千萬平方分の土地を支配し、八千五百萬の獨逸人に六十萬平方分の土地しか與へられぬ」不合理を指摘悲憤絶叫して英攻勢に出た現在に至る迄、再軍備を自指し、自動車工業、航空工業の大擴張、軍需品生産大擴張のための工業機械工業を發達せしめたのは、苦境試練の時に、来る征伐を胸に深く誓つて勇ましく立つた獨逸の現在の姿である。酷は横道に

入るが、獨逸工作機械の今日の隆盛を致さしめた、シュレージンガーは昭和三年の萬國工業大會に東京へ獨逸代表として來朝してゐる當時學生であつた私共も、その發表を傍聴したのであるが、このシュレージンガーは本國から日本工作機械が將來獨逸製品の競争相手として、恐るべきや否やの調査を依頼されたの對し、その視察報告は、日本機械工業の貧弱低級さの報告以外何もなく、日本への競争は案ずるに足らぬと結論を下してゐる。ユダヤなる彼は、ナチ政権確立後、國を追はれ、日本でも彼の誘引を數回試みたが實現されず彼は今何處の國にゐるか。

米内前首相は自主的外交といふ言葉を使用したのであるが、自主的工業といふ言葉を再三反省吟味して見ねばならぬ。我々は、友達に接し交つて、強く心に打たれ、頼母しい男としての魅力を感じる一つはやはり明日への心の用意と、それに対する準備に我々として勵み得る友だ。又かゝる友こそ現代國家が要求する國民の一人である。東亞の盟主を以て任する日本は一刻も早く立ち上らねばならぬ。科學技術も動員せねばならぬ。一日も欠くことの出來ぬ石油も、百年前は米國東部沿岸の住民が鹽を得るための鹹水井戸に浮ぶ惡臭の液体として惱まされたのである。石炭も初めは、それを燃料として使

用せんと試みた學者連に棒で突き廻されて、石炭無價値の酷印を押されさへした。日本に澤山ある砂鐵も、電撃精鍊法で價値を見出されんとしてゐる。燐鐵礦から出る燐滓は廢棄して顧られなかつた。許りか、廢棄處分さへ厄介視されたのに、時代の開光を浴びて、保温保冷、防熱、防寒、防音の燐滓綿として擡頭して來た。トーマス製鋼の際の燐滓は過燐酸石灰に勝る數々の長所を持つた機肥として、日本では既に試験済みである。など／＼増産と廢品回収の徹底が今こそ力強いスタートを切つたのである。自主的工業といふ言葉を當り憚る所なく高らかに叫び得る日を近い、極く近い將來に期待するのである。

入るが、獨逸工作機械の今日の隆盛を致さしめた、シュレージンガーは昭和三年の萬國工業大會に東京へ獨逸代表として來朝してゐる當時學生であつた私共も、その發表を傍聴したのであるが、このシュレージンガーは本國から日本工作機械が將來獨逸製品の競争相手として、恐るべきや否やの調査を依頼されたの對し、その視察報告は、日本機械工業の貧弱低級さの報告以外何もなく、日本への競争は案ずるに足らぬと結論を下してゐる。ユダヤなる彼は、ナチ政権確立後、國を追はれ、日本でも彼の誘引を數回試みたが實現されず彼は今何處の國にゐるか。

# 江都雜信

味澤生

東京に移り住んで、かれこれ十年になる。尤も中二年前、江戸から離れては居たが、再び江戸へ舞ひ戻つて足掛四年、今では一つはしりの東京人のつもりで居る。こんな手合に、つもりで居られては、「東京」の方で迷惑かも知れぬが、大体東京といふ所は、七百萬の大部分がこんな手合である。数は力である。生粋の江戸ツ子は、何時の間にか、隅の方へ押し片つけられて、それらしい生きのいいのは餘り見當らぬ。火事と喧嘩と初鯨、天ぷらとまぐろの壽司を食つて、背越しの金は持たぬといふ、舊型の江戸ツ子に會ひたいと思つても、今では大臣に會ふより難かしいかも知れない。江戸三百年の文化様式、生活様相は七十年の東京様式に、完全に喰はれてしまつた譯である。芝で生れて神田で育つた纏持も、警防團と改る御時世とあつては、何時迄もランナーでもあるまい。兎に角、純粋とし、東京と共に、舊型江戸ツ子は、スフ、外米の東京ツ子に替つてしまつた。だから田舎出の者でも、小さくなつて居る者は一人も居ない。それどころか、最近では田舎に郷里を持つ者の方が、何となく大様に構へて居る。物資不足が其の原因である。いよ／＼となれば、田舎へ歸つて土を掘るといふ決心がつくからであらふ。金、漬物、卵、柿、リンゴ、田舎から送られる家庭は、所謂江戸ツ子家庭には、羨望の的である。金さへあれば何でも間に合つた。元の東京と東京が異つて来た。不自由は人間を鍛へる。消費生活者、東京人へのよき試練といふものだらふ。

以前は地方から、知己友人が訪ねて来られると、晝食にしろ、夕食にしろ、大概は何處かの、ウマイ物屋へ出かけたものである。一寸一足出れば、何が喰へる、かにが喰へるといふ仕掛に出来て居る専門屋がある。だから、オイ、一寸御連れするよといふ、段取りになるのは當り前であらう。所が、其の當り前てしやうに大異變が来てしまつた。まだ食物に統制制の無かつた一昨年の夏邊りから、食物がベラボーに高くなつてしまつた。金額のことを言ふのは聊か氣がさすが、其の前途は一人前、三圓か五圓で精糖名のあつた家の飯が喰へたに、段々上つて其の年の秋邊りには、完全に天井値になつてしまつた。一人前十五圓、二十圓となつて来た。喰ひ度胃袋、若返り度い心臓は益々旺盛だが、皮一重隣にある財布の方が、赤旗を掲げては萬事休さざるを得んことなるのも亦、當り前てしやう。兎角人間といふものは、食氣と色氣には眞剣になるものだ。市民の聲に政府當局も捨てては置けずとあつて、實情調査をした所、一ヶ三圓のすしを賣つて居た家があつたとかで、大臣諸公もカン／＼になつた。早速食物の公定價が出来て、晝食二圓五十錢迄夕食五圓迄、以外は出すべからず、喰ふべからずとなつた。晝酒は御法度、花柳界は五時先づ食、色、兩本能の統制が出来上つた。大休これで街の君子連の酒は消へたかに見えたが、事變の生活への重畳は、こんなどうでもよい問題は、文字通りどうでもよくなつてしまつた。

外米四割何のその、有りさへすれば結構、切符で渡される炭屋氏が救世主の様に見へたり、地方へ出て卵を買へた時の氣持、菓子屋の前の長蛇の列、切符はあつても給料日迄炭の買へぬ人、見來たり、感じ來たり、聞き來れば、バカにした女房料理が美味くなり、荒れた手のお酌でも結構イケるといふものである。其處で考へる。大体生活、生活と騒いで見ると、自分一個の生活なんてものは、有り得ない。世相に添つて行くといふよりも世相に従順に流されて行く、それだ。東京の生活、地方の生活と此べて見た所で、何の變りもない。一寸眼に見た所の差は多少あるかも知れないが、それは表面の波で、底を流れる、大きな力に差のありやうはない筈である。米は外米で結構、酒は無ければそれでよい。女は女房で我慢する。管り得て妙なりと感じた時には、老眼鏡が必要になつて来るのだから世話はない。

## 選蛾抄

出野正雄

北の國の春は遅い。遠い故郷の花のたよりと春雨のおとづれをきいて私はむせび泣くやうな春の感傷を想ひ出すにはあられもないのである。かういふ遅い春の氣配がさくばくとした私の身邊に漂ひ始めた五月に近きころ、ゆくりなくも曾遊の地、西豊へ出かけて梓蠶原々種の病弱検査作業に従ふことになつた。うらうらとした早春の旅に列車の窓に映る私たちの眼にふれるものは半歳の凍結からやうやくあけ放たれたふくよかな大地と、ところどころにひととむれ、ふたむれ佇立するどろどろやなぎの蔭の様なすがた、美しい作條に沿つて點々としかも行儀よく並ぶ土囊の堆積であり、家畜を追ふ子供等の歡呼するありさまである。西豊についてみると路傍の雜草は僅かに青み、ねこやなぎが銀色に輝いてゐるなど、もういくらも春の景物が轉つてゐた。夥しい數の蛾が出て作業場では鱗毛の飛散する中で仕事に馴れた苦力たちが夜を徹して忙しく立ち働く。探卵にさきだつて雌蛾の肉眼的検査を行ひ、外部徴候に依る不健全蛾を排除し肉眼的に無毒にして健良と認められるものを用ひて蛾別に袋製探種法に依る探卵を爲し所謂改良自然沈降検査法に依る検査を行ふのである。この場合、選蛾の微粒子病防除の効果についての實驗成績報告は無いやうだが、相當に有効なものであることはうなづけると思ふ。改良自然沈降検査法についてはすでに二三の學術雜誌に報告されてゐるから解説の煩を避けることにするが、この方法も亦相當に有効なものであることを認め私達はこの記憶するが、藤又藤夫さんが、さる會合でこの改良自然沈降検査法について私に酷評されたことを記憶してゐるが、私たちが滿洲國の梓蠶業に携はる者として（此處に詳しく申しわけをする暇は無いのであるが）現在の滿洲梓蠶業の實態を知つての上の仕事であることとを言ひ度いのであつて別に弊興の言葉尻をとらへようとするのではない。また批評の對照が「検査方法」にあつたのか、或はそれ以外のところにあつたのか、その邊は判然しないから取り立てて議論することも要らないと思ふ。けれども滿洲國は如何なる場合と雖も權威ある學説を傾聴することに躊躇しないのである。然る様な誠意とあふれるやうな親切をもつて與へられる忠告の指さす方向に我々は感激の眼をもつて注目することになり、さも答ではないのである。

世の中は三日見ぬ間に青葉かな。未ださういふ青葉の候ではないが、僅か數日、マヌクをかけ風呂敷で顔冠りをして鱗毛にまみれ、或は顯微鏡をのぞいて胞子の探索に耽つてゐる間に戸外の草木がびつくりする程あをくつてゐることに氣づいたのである。土筆が出る、鈴蘭が匂ふ。わらびがとれる。蠶百合が咲く、さういつた蠶場の梓蠶を放ち、天蠶を養つてゐた三年前の西豊の山がなつかしく、眼にしみる様な濃い霧が忘れられぬ。私は「丘に寝て流るる雲に呼びかよふよ」といふ唄を、美しい雲の流れをの見るたびに思ひ出した。今年も亦さういふ季節がせまつて来た。

私は一週間足らずで西豊を去つて、また新京に歸つて来た。ひとしきり、ほこりつぽい風が吹けばやがて柳絮が雪の様に舞ひ、リラの花がほふのである。

— 皇帝訪日宣詔記念日に —

# 母校便り

## 繊維化学科新教室完成

昨年八月着工の繊維化学科校舎(二階建々坪三八七坪、平屋建々坪一五二坪)は新學期の四月に完成、現在内部諸器具を整備しつつあるがこの程舊蠶絲化学教室より一部の移轉を行つた。二階階下は生徒化学實驗室、顯微鏡實驗室、教授研究室、藥品器具室、事務室、科長兼研究室、階上は教室三室、合併教授を兼ねる小講堂、光學實驗室、教授準備室、研究室、標本室等あり、廊下屋根裏は物置になつて居る。平家建は生徒控室、危険ガス實驗室化学實驗室、天秤室、會議室兼應接室、器具室、教授研究室等あり、其外長さ四間の兩側使用ドラフトが出来てゐる。

## 千曲寮新設

先年従來の一年生入寮を一、二年生入寮に規定を改め寄宿舎の狭さを感じてゐたが更に昨年来新設繊維化学科の生徒も増加してゐるので愈々新寮の増設が必須となり、新築至難の折柄、常入宿山茂平太氏の二階建寮室を改造したものを借受け之を千曲寮と命名した。この千曲寮は調理室、食堂、新聞閱覽室の外八部屋で、現在三十五名が寄宿してゐる。

## 新學年學級主任

昨年十二月報國團の結成と相待つて設置された學級主任の新學年の任命は四月一日左の如く行はれ訓育教化の徹底を期しつゝある。

- 昭和十六年度各科級主任(四月一日)
- 第三學年 第二學年 第一學年
  - 養蠶科 倉澤教授 山口助教 蒲生 教授
  - 製絲科 大瀧教授 林 教授 窪田助教
  - 絹紡織科野口教授 小松 教授 湯原助教
  - 纖維化学科真教授 大平 教授

## 會田源作助教新任

今回纖維化学科の方に四月十五日付を以つ

て會田源作助教が新任された。同助教は明治卅九年生、福島縣の出身で、昭和四年桐生高等工業学校卒業、同五年山梨縣立商工学校教諭、同十四年同縣立津崎中學校教諭、商工学校教授嘱託を兼務、同十五年群馬縣立伊勢崎工業学校教諭に轉じて現在に至つたもので、御精勵を御期待する次第である。



## 各級總代任命

本學年第一學期の各クラス總代は四月十五日次の如く任命された。

- |      |       |     |       |    |     |
|------|-------|-----|-------|----|-----|
| 養蠶三年 | 大久保孝一 | 正總代 | 大瀧    | 吉郎 | 副總代 |
| 二年   | 石井 耕一 |     | 西野    | 久  |     |
| 一年   | 成瀬 正夫 |     | 牧野    | 嘉雄 |     |
| 製絲三年 | 小林 武志 |     | 鈴木    | 富夫 |     |
| 二年   | 渡邊敬一郎 |     | 福島    | 正富 |     |
| 一年   | 岡 弘   |     | 山本    | 十三 |     |
| 紡織三年 | 小川 弘之 |     | 宮澤    | 矩雄 |     |
| 二年   | 寺西 徳雄 |     | 小林    | 政雄 |     |
| 一年   | 小相澤榮夫 |     | 今枝    | 重明 |     |
| 纖維二年 | 小池 保義 |     | 高見澤   | 良夫 |     |
| 一年   | 柳澤千代茂 |     | 片山    | 敏  |     |
| 教諭二年 | 赤池貴のえ |     | 竹田トヨ子 |    |     |
| 一年   | 木村 スエ |     | 飯田 永子 |    |     |
- 新設千曲寮を加へて四寮の本學年一學期の各寮長は四月十五日次の如く任命された。
- |              |          |
|--------------|----------|
| 寮長           | 副寮長      |
| 修己寮 大泉和也(化二) | 山中 明(蠶二) |
| 東寮 田正記(絲二)   | 田端藤衛(蠶二) |
| 高岳寮 西野 久(蠶二) | 龍竹璋夫(化二) |
| 千曲寮 石井耕一(蠶二) | 福島正富(絲二) |

## 謠曲研究会

報告團になつて文化部に謠曲研究会が生れ、蒲生文化部長自ら其の世話を努められてゐるが、毎週火曜日放課後二時間千曲會館で教習の聲がする。其中、實生流は鷹野悦之助氏(鹽川村)蒲生教授、觀世流は阿形講師が師匠で各流派共、生徒は十五名程あり、現在竹生島を教習してゐる由。

## 映畫班の活動

報國團文化部内に設けられた映畫班は學生の文化的向上、情操陶冶、娛樂善導を目的に名畫の鑑賞、批判、後援其他小型映畫の撮影を事業としてゐるが設立以來同班の推薦せる映畫は西任戰車長傳、驛馬車、燃ゆる大空、小島の春、美の祭典等大体文部省推薦映畫であつた。尙同班内の寫眞同好會も作品の研究、批評、發表等着々事業を行ひつゝある。同班員は仲々多數を占め、其の指導には期して待つべきものがある。

## 防火講話

最近頻々と大火災害が新聞紙上に見えたので、本校でも特に注意を喚起するべく四月十五日土田警察署長を招き、講堂に於て一時間互る防火に關する講話を聞いた。

## 滑空機入魂命名式

過般班員の手によつて製作された滑空機の入魂、命名式が四月十九日午後校庭に於て行はれた。井上團長挨拶、高木國防部長、來賓上田飛行場長の祝辭があつた後、班員の牽引に依つて校長、佐藤、原田、岡教授、依田書記等の試乗があつた。

## 志賀生徒主事補母堂逝去

生徒主事補志賀章雄助教の御尊母(六十歳)には山形縣の郷家にて永らく病氣療養中の處効無く遂に四月二十三日逝去された由謹んで御悔み申上げる次第である。

## 校内喫煙に注意喚起

先年校内喫煙に關し火災防止の上から喫煙場所を指定して置いたが徹底を缺く所あるを遺憾とし、四月廿四日全生徒に對し校長より節煙並に喫煙道徳に就いて訓話があり、左の指定喫煙場所には吸殻壺を設け、指定場所以外に於て喫煙する者には罰戒を與へ、二回以上反則する時は停學處分することとし徹底を期することとなつた。即ち指定場所は生徒控室、乾蘭室南池端、修己寮西テニスコート、グラウンド東北、東南兩隅、紡織科池端、纖維科小使室、テニスコート、ベンチの八ヶ所が實習中休閑時に限り養蠶小使室、製絲小使室が許されてゐる。

## 養蠶科職員會ハイキング

養蠶科職員會は業手、傭人を同伴して四月廿七日の日曜日に一行廿五名で小諸から一里餘の菱野鑛泉に春のハイキングを行つた。風稍薄寒い日ではあつたが春陽を充分浴びて佐藤科長を始め頗る元氣で往復の道を或ひは語り或は唄ひつゝ午後三時には小諸に歸り懐古園を逍遙し有意義な和樂の一日を送つた。

## 學生義勇軍に關する講話

四月廿八日午後、皇后陛下より賜りたる結核豫防に關する令旨の捧讀並校長の結核に關する訓話があつた後、江木義三郎氏の學生義勇軍に關する講演があり、學生は修練に對する氣風、義勇奉仕の精神を強く喚起される所があつた様である。

## 蠶 靈 供 養 祭

本校に於ける幾多研究の犠牲となる數多くの蠶兒に對し其の靈を慰め供養すべき本校蠶靈供養祭は四月三十日別所常樂寺僧侶讀經にて井上校長、佐藤養蠶科長、大久保生徒總代の焼香あり盛大に行はれた。

## 新入團員歡迎遠足會

四月卅日櫻花満開は己に過ぎてはゐるが、





計報

渡邊雪雄氏逝去

昭和十二年養蠶科を卒業、農林省蠶絲局蠶繭課に勤務されてゐた渡邊雪雄氏(蠶二四)は...

中島俊秋氏逝去

昭和十三年養蠶科を卒業、東京文理大副手として八木博士の許に研究に従事、昨年九月...

弔慰金募集

故佐谷戸健次郎氏(蠶一) 故中島俊秋氏(蠶二四) 故渡邊雪雄氏(蠶二四) 故佐谷戸氏(蠶二四)...

死亡會員遺族よりの禮狀

昭和十六年五月一日 福島市太田町八番地 妻 渡邊喜美代 故渡邊雪雄氏 南安藝郡種高町 父 中島 龜一...

弔慰金報告

(五月八日現在) 故菅澤隆三氏弔慰金 金五圓也 松野 正一...

Table listing names and amounts of condolence money received, such as 高田茂重郎 金貳圓也, 高田茂重郎 金貳圓也, etc.

噫々西谷剛一君

飯田 武門

軍隊生活の経験を持つ者の誰かが味ふ、あの初年兵時代の多忙に紛れて十八級友と全く...

卒業アルバムに私は級友の個人寫真にその人の印象を深く一人一人に三年間の交友より見たる印象記めいたものを記した。...

(陸軍自動車學校にて)

會 員 動 靜 (五月五日)

佐原良太郎 (現職) 本校纖維化學科、教授(住)上田市鹿裏
會田源作 (現職) 本校纖維化學科、助教(住)上田市坂井田町二丁目
菅原勇治 (現職) 三井物産奉天支店内距離蠶絲株式會社設立事務所(滿洲國奉天市)

竹下喜久 (蠶二七) 丸山喜久 (蠶二七) 清水比呂夫 (蠶二八) 青柳敬之助 (蠶二八)
田中製綫平 (蠶二八) 松田得治 (蠶二八) 池田逸郎 (蠶二八) 榎内英一 (蠶二八)

# 遠藤保太郎先生退官記念品贈呈資金募集

謹啓

時下初夏之候愈々御清適之段奉賀上候

陳者、這般、遠藤保太郎先生が突然御家庭の御都合上御退官の上、急遽御歸郷被遊候ことは已に會報紙上に於て御承知の事と奉存候

遠藤先生の本邦蠶絲業界に寄與せられたる偉大なる業績、且いて母校に對する赫々たる御勳功は、今更暇々を要せざる所と存候

實に母校御在職二十有五年の長きに亘り、校に在りては一意専心子弟の教養に、校務の軌掌に目も亦足らず、出でては著作に、研究發表に、又業界指導に専念され、斯業界に貢獻せられたる事は内外共に景仰する所にして常に吾々會員一同感謝措く能はざる所に御座候

今回御家庭の御都合は申しながら、御歸郷の止むなきに至り候ことは實に母校のため遺憾たるのみならず、本邦斯業の爲にも非常なる損失と存じ極力、御留任を懇請致候も遂に容るゝ所とならず、此所に御別致すことに相成候、洵に惜別の情に不堪次第に御座候

就ては、此の際先生の御功績を讃え、且多年の勞に酬いん爲め、資金を募集し、記念品を贈呈致し度候間左記御諒承相成御賛同の上御醜金被成下度此段御依頼旁々得貴意候

記  
敬具

一、醜出金額 御隨意

一、申込期限 本年九月末日

一、送金先 母校内千曲會

(振替長野六貳四參番)遠藤先生記念品贈呈資金  
明記の事

一、受領證 千曲會報紙上

一、記念品 發起人に御一任度願

昭和十六年五月 日

發起人代表

蒲生俊興

## 編輯室より

△増産企畫の下、農産家は去る再度に亘る霜害で泣いても泣き切れぬ苦境に陥つたが、挽回の心構へと善後策に奮起して豫想を超へた成果を擧げるであらう。

△柳澤教授より『明日への備へ』の玉稿を得た。感謝に耐えない、軍需物資と科學及技術の上から國際關係を検討し科學者、技術者の奮起を望まる。

△味澤生氏の『江都雜信』は現都會生活者の生活ヤリタリをよく現はしてあて面白い。紙面の都合で一部割愛削除した事を御諒承願ひたい。

△纖維化學科は愈々建物と陣容が整つて來て軌道に乗つた教育が出来ると言ふもの、精々御勉勵を願ふ。

△盛り澤山な報國團も、新學期から各班夫々華々しく活動を開始したが、この一年間の試運轉で何んな結論に到着するか。

△曩に退職された恩師遠藤保太郎博士に記念品を贈呈すべく資金を募集す、各位ご何卒之に賛同、景仰の意を表せられたし。

△勵みでは居れど亦本號も遅れて申譯なし、御詫びを述べる苦衷を察し給へ。

## 廣告料

年拾回發行部數一五〇〇部

裏表紙面(一回)	貳拾貳圓
表紙内面(一回)	貳拾圓
裏表紙内面(一回)	拾圓
中付ノ前後(一回)	拾圓
後付ノ前後(一回)	拾圓
半頁	一頁料金七ノ割
1/4	一頁料金ノ四割
割引	一〇回連載ハ三割引ノコト 五回連載ハ一割引ノコト

◎料金は申込と同時に御拂込下サイ  
◎銅版、凸版代ハ別ニ寶費頂戴致シマス

昭和十六年五月二十五日印刷  
昭和十六年五月三十日發行 (非賣品)

編輯兼 上田蠶絲專門學校内  
發行所 小松忠一郎

印刷所 上田市原町五七九五  
印刷所 上田市原町五七九五  
印刷所 中澤印刷

發行所 上田蠶絲專門學校内  
法人 千曲會

電話上田四〇六番・六六番  
電話日産(東京)四三三番  
電話日産(長野)六二四三番

## 信濃教育品株式會社 サトウ商店

東京本店 電話日本橋(六)六六番  
長野支店 電話二七三四番  
鎌倉支店 電話一四一四番  
上田支店 電話五七三番  
松本支店

運動用具  
理化器械  
化學藥品  
度量衡  
計量器  
掛圖全般

は弊店へ

カ山森日  
ル田本  
ニ本  
一運出  
顯育動  
微機版  
鏡械店社  
【店理代縣野長】